

子育てに関わるすべての人々に、 深い感動を呼ぶ人間ドキュメンタリー。

重い脳性まひの娘がかえってその母の人生の幅を大きく広げた。母は困難を超えて独力で保育所を作り上げ、子育て・人間・人生について誰よりも深い真理に触れた。この2巻は『障害児の娘と保育の仕事と』の著者が、自らの生い立ちから娘の出産・人生の転換を経て、心身障害療護施設の設立に成功するまでを綴る半生の記録であり、子育てに関わるすべての人々に深い示唆と感動をもたらす人間の記録である。



人形棚の白い靴

— 障害児の母となって① —

- 著者自身の生い立ちから末娘・友ちゃんの誕生。絶望と不安、障害のある子を育てながらも仕事を続けたいと願う心の揺れ動き。そして、決断。独力で保育所を作り上げる。母として、保母として障害児保育の勉強に意欲をもやす。



ありがとう ごめんね

— 障害児の母となって② —

- 友ちゃんの入学。さまざまな障害を持つ子らの発達に応じてなされる教育の現場の姿。そして、友ちゃんの卒業後の生きる場を保障したいという願い。それは、親亡きあとも安心して生活できる場を作る活動へと発展。奔走は実を結び、多くの後援者を得て心身障害療護施設『麦の家』設立に成功する。

高城山保育園園長 土屋多喜栄・著 四六判・各巻256頁・定価各1,200円

くわしくはフレーベル館代理店・特約店・支社・支店・営業所または本社営業部(03)292-7783(代)にお問い合わせください。

子どもの心と明日を考える
キンダーブックの

フレーベル館